
魔界王

愁焰 飛翠

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔界王

【Nコード】

N2958A

【作者名】

愁焰 飛翠

【あらすじ】

魔界。そこは11人の霸王によって統一されていた。ノアの洪水により霸王の力が人間界に落ちてしまった。

闇霸王の継承者

小さな小さな星が集まり、一つの大きな大きな群れを作り、朧月夜の空を漣のように音を起てている。薰風が寒さと混じり、次の季節の始まりを感じさせた。数枚の花びらがヒラヒラと風に流され舞い落ちる。

私達が生きている現代にも、古代にも中世にも、この景色はずっと続いていたのだらう。

四季折々に形を変え、人々を昼夜問わず楽しませていた。闇夜を照らす照明と月夜。

笛の美しい調べと犬の遠吠えが静かな夜に響くその音は、独特の世界を作り出していた。

「・・・静かだな。」

もう、深夜の2時を過ぎていた。笛も犬も、もう聞こえない。涅槃の世界で修介は瞑想にふけた。夜風が頬を撫でる。

いつまでもこれなら世界も平和だらうな・・・。

「・・・誰だ？」

小さな声がした。

何人かの声が聞こえる。

「早く見つけなければいけないのだ。隅々まで捜せ！」

・・・何を探しているのだらうか。

「見つけたっ！ルシファー様と同じ波動の人間。」

「貴様は・・・？」

「虞汰様、発見しました。」

「よくやった！春風。この人間を魔界に連れて行くぞ！」

春風が修介の手を掴む。

とても女とは思えない力だった。

融合の儀式

「お帰りなさいませ、エン様、ゲート様。その人間は？」

「ルシファアの新しい体だ。」

「そうですか、若いお方で。」

修介はあの後、春風のすごい力により気絶していたのだ。

「エルラ、この人を変換台に乗せなさい。」

「ゲート様、ルシファア様をお連れしますか？」

「お願いします。」

「分かりました。」

修介は目を覚ました。

辺りを見渡し、自分が入っているガラスケースを叩いた。

「おや、元気がいいな。何歳だ？エン？」

「人間界の１８歳。魔界では１８０歳です。」

「人間、この方がお前だ。」

「出せ！ここから出せよ！」

あれからずっと叩いている。

「可哀相じゃ。」

ガラスケースの中にルシファアが入った。その瞬間、背筋が凍ったような気がした。

「データ転送開始。」

修介の手足は謎の電気により感覚が無くなった。

ルシファアの入っているガラスケースが緑に染まっている。

そして、ルシファアの頭と修介の頭を繋いでいる管も緑に染まっていた。

「うわああああ！！」

修介のガラスケースが煙に包まれる。修介はずっと叫び声をあげたままだった。

しばらくして叫び声がなくなった。煙がなくなりガラスケース

が開けられた。

ルシファーが出て来た。

「いかがですか、180歳の力は？」

ルシファーはニヤリと笑った。

「最高じゃ、エン。お前のおかげで維持できた事に礼をしよう。ゲ

ーテ、お前にもじゃ。」

「アルよ、こいつらをわしの親衛隊に入れるよいな。」

エンとゲーテは喜んだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2958a/>

魔界王

2010年10月28日05時09分発行